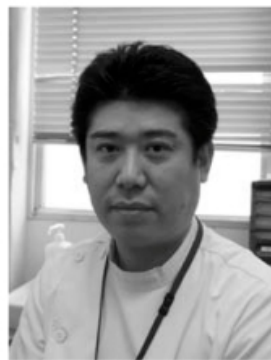


# 「胃食道逆流症(GERD)について」



健診センター長  
外科部長

石尾 哲也

山香病院だより vol.52

皆さんは、胃食道逆流症(GERD)という病名を聞いたことがありますか？

逆流性食道炎なら、聞いたことがある人も多いかと思いますが、

GERDとは、『胃の内容物が食道に逆流しておこる病気』という意味で、これには『逆流性食道炎』と『非びらん性胃食道逆流症』が含まれます。主な症状は、胸やけや口の中まで酸っぱい水が上がる感じ(呑酸)などですが、なかには胸の痛みが起こることもあります。

内視鏡で、食道炎(胃酸の逆流により、食道粘膜がただれたもの)が認められるものが『逆流性食道炎』で、胸やけや呑酸があるものの、内視鏡で食道炎が確認できないものを『非びらん性胃食道逆流症』と呼びます。

GERDは、主に下部食道括約筋圧の低下や、腹圧の上昇により、胃液の逆流防止機構が破綻し、食道に胃酸が逆流することによって起こります。

この原因には、不適切な食事習慣(暴饮暴食、高脂肪食、食後すぐに横になるなど)、骨粗鬆症等による腰曲がり・前かがみ姿勢、肥満、食道裂孔ヘルニアの存在などが挙げられます。また、アルコールや喫煙も悪影響を及ぼすと言われています。

よって、GERDの予防には、早食いや大食いをしないこと、高脂肪食を控えること、飲酒や喫煙量を減らすこと、減量などが挙げられます。

GERDの治療には、生活習慣の改善、薬物治療および手術療法があります。

生活習慣の改善とは、先に述べたGERDの予防策を実践するわけですが、これだけでは症状の著明な改善は得られないことが多いようです。

生活習慣の改善に加え、胃酸の分泌を抑えるプロトンポンプ阻害薬(PPI)や、H2受容体拮抗薬(H2RA)というお薬を内服されると、多くの患者さんで症状の改善を認められます。また、PPIやH2RAのみでは、消化管運動賦活剤(胃から食道への逆流を防ぐ作用と、食道蠕動運動を増強する作用をもつ薬)を併用する場合もあります。

薬物治療では効果が無い、重症のGERDの患者さんは、手術の対象となりますので、症状のある人や、中等度以上の食道炎のある人は、早めに薬物治療を受けることをお勧めします。

胸やけや、呑酸などの症状のある人や、食道炎が気になる人は、一度病院を受診し、医師に相談しましょう。